

# Dental

magazine

デンタルマガジン

VOL.137

Summer 2011

ISSN 0915-0064

特・集

ツインパワータービン ウルトラシリーズ マイクロヘッド

## 「小」が「大」を兼ねた! 「マイクロヘッド」なのに「ハイパワー」!!

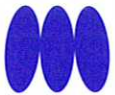
### CLINICAL REPORT

- ・う蝕検査における透照診の可能性  
「マイクロラックストランスイルミネーター」

連載

### CLINICAL HINT

患者さんにも歯科衛生士にも  
快適なシャープニングとは?



MORITA

# CLOSE UP



ドルフィンデンタルクリニック  
院長 中原 達郎

## スウェーデンの予防歯科治療を手本に エビデンスに基づいた“Dentistry with humanity”を实践

スウェーデンの予防歯科治療に目覚め、自ら学び成長し続けることを信念としつつ、“Dentistry with humanity”（心の通い合う歯科診療）を基本ポリシーに、エビデンスに基づいた誠実な全人治療に専念されている中原達郎院長。患者さんへの啓蒙や心配り、スタッフ教育に注がれる入魂のバイタリティはどこから生まれるのだろうか。

### “Dentistry with humanity”こそ診療の原点 平成10年、ドルフィン歯科をスタート

九州歯科大学在学中はサッカー部に属して大活躍された中原院長。卒業後は先輩が開業する歯科医院に勤務され、小児から高齢者まで、保存修復からインプラントまで、実践的な診療スキルを体得されてきた。

「学んだのは、患者さんの全身を診る包括的な全人医療の大切さと、患者さんへの敬愛精神です。きちんと説明して納得していただき、未永いお付き合いができるような信頼のパートナーシップを築き上げることでした。Dentistry with humanityこそ私の診療の原点です」。4年半ほどの勤務後、先輩たちのサポートを受け、平成10年10月、佐倉市染井野



に立ち上げられたのがドルフィン歯科だ。その11年後の平成21年3月にドルフィンデンタルクリニックと改称、現在地に転移して新たなスタートラインに立てられることになった。

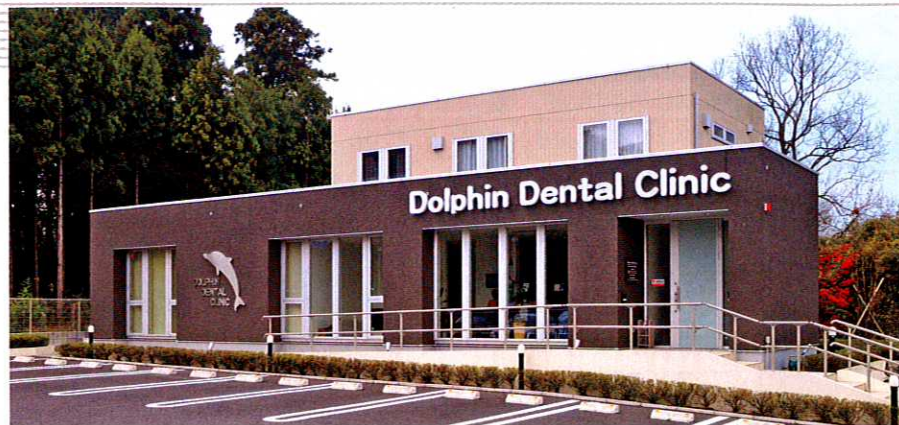
### エビデンスの大切さに目覚め 包括的・全人的な診療環境の構築へ

「開業してまず手がけたのは東京歯科大学病院との連携でした。最前線で活躍されている歯科矯正、歯周病、歯内療法、インプラントの専門医の先生方を確保して、すべての患者さんに常に質の高い医療を提供できる診療環境を構築したかったのです」。その動機は何だったのだろうか？

「勤務医になりたての頃、多くの先生方にどのような診断が適切なのか？なぜその治療法を選ぶのか？をよく質問しました。しかし、主観的・個人的な経験やスキルは説明して下さるものの、客観的な根拠や基準が明確でなかったため、私の頭の中から疑問が消え去るには至りませんでした。その悩みを解決したい一心から、親しくしていただいていた当時スウェーデンから戻られたばかりの弘岡秀明先生に、どうすれば確信を持った治療ができるのかを必死に問い質しました」。

弘岡先生のアンサーは明快だった。「欧米の学会や研究者が雑誌や学会誌に公開している学術論文を読むこと。それらの情報やデータは長年にわたって研究・論証・蓄積され、科学的・臨床的に裏づけられた根拠のあるノウハウだ。その原著を読解し、成功率の高い情報やデータを選択して、評価・診断・治療に活用すればいい」。中原院長がエビデンスの重要性に目覚め、気づかれた瞬間だった。

「そんな時知ったのがう蝕が少ないとされるスウェーデンの予防歯科治療の実態でした。北欧では質の高い研究から得られたデータに基づいて、その効果を科学的に分析・検証・評価したうえで、臨床に応用するEBD（Evidence Based



Dentistry／科学的根拠に基づく歯科治療)が主流であることを知ったのです」。

こうして、中原院長はスウェーデンの予防歯科治療を手本として、エビデンスに軸足を置きながら、Dentistry with humanityに即した包括的な全人医療を实践されることになった。

### 論文を読む、勉強会で学ぶ、自己啓発する 日に日にレベルアップするスタッフ力

「臨床専門誌で英語の学術論文に接する機会を作ろうと思ひ、3人のドクターと東京歯科大学の臨床研修医2人に論文のコピーを手渡して、週1回、自発的に抄読・発表できる時間をもっています」。中原院長の思惑通り、成果は着々と積み上がっている。

「スタッフ教育は、開業当初からの大宿題でした。医療人である前に良識ある社会人の自覚と責任感を持ち、常識やマナー、言葉づかいや挨拶ができるのはもちろんですが、医療はヒューマンタッチやチームワークが生命ですから、すべてのスタッフが共通の目標を持ち、生きがいをもって働けるように、モチベーションやプライドを共有できる環境に配慮しています」。特に歯科衛生士の役割は重要なので、6か月間、フリーランスの歯科衛生士による指導やコンサルテーション



歯科衛生士が行う口腔衛生・食事指導、ブラッシング指導、口腔衛生指導は患者さんのモチベーションを高め、治療への信頼を支える礎だ。



スケーラーのシャープニングは歯科衛生士の生命線。プロ意識を高めるためにスケーラー、ストーンなどのツール類は各個人が購入し、管理している。



スムーズにインフォームドコンセントを進め、患者さんの理解を深める口腔内画像は重要。撮影はすべて歯科衛生士が行っている。

を受けてスキルアップを図ってきた。また、勤務医や歯科衛生士のレベルアップを図るため、講習会への参加、外部講師を招いての講義や実習も医院をあげて日常的に行われている。

「歯科衛生士のプロ意識や自覚を高めるために、スケーラー、ストーンなどのツール類は各個人に購入させ、その管理も全責任をもたせています」。また、SRPや口腔内写真撮影といった技術トレーニングにも熱心だ。スタッフミーティングと勉強会は月2回、ナイトミーティングは月1回。AED講習会も半年に1回実施して緊急時に備えている。

さらに、情報の共有化が診療の質を高めるという観点から、診療用と受付用の2種類の連絡ノートを活用、情報の追加・変更、連絡を緊密化している。



平成13年からは、弘岡秀明歯周病学コースのインストラクターとして後進の指導にも当たられている中原院長。「自分らしい生き方にこだわりたい。決めたことは毎日実行し、約束や期限は必ず守りたい。プロとして複数のポジションをこなせるユーティリティプレイヤーをめざし、デンティストリーのフォワードでありたい。なぜなら、満足のあるところに成長はないからです。患者さんからいただく『ありがとう』の言葉が、私たちをいつも勇気づけ元気づけてくれます」。

中原院長のバイタリティの源、それは患者さんに注がれる深い敬愛の心にあるようだ。